

野に咲く花の歴史

- ・番号は裏面の写真番号
- ・時代の色は花の色

【農耕文化とともに日本に入ってきたと考えられている植物】

草花が初めて掲載されている時代と文献

- ⑮カキツバタ **奈良時代** 万葉集に「垣津幡」として登場
- ⑭オオフトイ **奈良時代** 万葉集に「大藺草(おおいぐさ)」として登場
- ⑨オオバコ **平安初期** 新撰字鏡(900年ころ)に掲載
- ⑲チチコグサ **平安初期** 射恒集(925年ころ)に掲載
- ⑥チドメグサ **江戸初期** 日葡辞書(1603-04)に掲載

【江戸時代以前に日本に入ってきたと考えられる植物】

草花が初めて掲載されている時代と文献

- ④ネジバナ **江戸初期** 俳書「毛吹草」(1645)にモジズリとして登場
- ⑪コウゾリナ **江戸中期** 大和本草(1709)に掲載
- ⑱カワヂシャ **江戸中期** 大和本草(1709)に掲載
- ①コナスビ **江戸末期** 本草綱目啓蒙(1805)に掲載
- ⑤トウバナ **江戸末期** 物品識名拾遺(1825)に掲載
- ②(ヒメ)ヨツバムグラ **江戸末期** 草木図説(1856~62)に掲載

【開国後に日本に入ってきたと考えられている植物】

草花が確認された時代と場所

- ③(シロバナ)マンテマ **江戸末期** 弘化年間(1844-47)に観賞用として渡来
- ⑭ヒメジョオン **江戸末期** 慶応年間(1865)頃に観賞用として渡来
- ⑩ヘラオオバコ **江戸末期** 幕末(詳細年は不明)に渡来
- ⑰オランダガラシ **明治初期** 明治初期(詳細年は不明)に野菜として渡来
- ⑦ニワゼキショウ **明治中期** 明治20年(1887)頃に観賞用として渡来
- ⑬ハルジオン **大正時代** 大正9年(1920)頃に観賞用として渡来
- ⑫ブタナ **昭和初期** 昭和8年(1933)に札幌で確認

<参考文献・情報>野に咲く花(山と溪谷社)、野草の名前春・夏・秋冬(山と溪谷社)、侵入生物データベース(独立法人国立環境研究所)、資料別・草木名初見リスト(慶応義塾大学日吉紀要・自然科学)No.45、植物雑学事典(岡山理科大学)

【東京港野鳥公園ホームページ https://www.tptc.co.jp/park/03_08】

【東京港野鳥公園ボランティアガイドブログ <http://tokyokovg.seesaa.net/>】で今観察できる野鳥、昆虫、植物の最新情報をいち早くお届けしています。ぜひご覧ください。

足元に古と季節を感じる!! 野に咲く花だより【初夏号】

6月初旬に咲いている野の花の写真・名前の由来・歴史を紹介してあります。観察の参考にしてお楽しみください。

自然生態園入口近くの可憐な花

園内は植物採取禁止です。
ご協力をお願いします



①コナスビ ● ←花の色

直径:5-7mm

特徴:星のように広がる5枚の花びら
由来:小さな実がナスに似ている
(ナスビの花は紫色)



②ヒメヨツバムグラ ○

直径:1mm

特徴:花も葉も4枚十字型
由来:ヤエムグラの仲間。ムグラは
草むら、ヤブの意味(写真より可憐)



③シロバナマンテマ ●

直径:約7mm

特徴:紅紫色の班がナデシコのような
由来:渡来当時の名前マンテマンが
省略されたらしい(なぜ?)



④ネジバナ ●

長さ:4-6mm

特徴:小さいランの花の集まり
由来:花が螺旋状にねじれるようにつ
ていることから(一度見たら忘れない)



⑤トウバナ ●

直径:長さ5-6mm

特徴:唇形で淡いピンク色の花が固まる
由来:花の固まりが段々について
様子が三重塔のよう



⑥オオチドメ ○

直径:約1mm

特徴:小さい花が10数個かたまってつく
由来:茎や葉の汁をつけると血が止まる
ことから(あまり効かないらしい)

ちょっと違う似た者どうし

(公園のあちこちで見られます)



⑦ニワゼキショウ ●○

直径：約 15mm
特徴：群生する。紅紫色と白色のタイプあり
由来：細長い葉が「セキショウ」に少し似て庭の芝生に現れるから



⑧オオニワゼキショウ ●

直径：約 10mm
特徴：背が高く、花の色は青紫色



⑨オオバコ ●

直径：約 1mm
特徴：茎の下から順番に咲く
由来：道端の草の中では葉が広く大きいことによる(食用シソの大葉と関係はある?)



⑩ヘラオオバコ ○

直径：約 1mm
特徴：茎の先に輪のような白いおしべ(食用シソの大葉と関係はある?)



⑪コウゾリナ (NC 入口そば) ●

直径：20-25mm
特徴：黄色の長い花弁と短い花弁
由来：葉や茎の赤褐色の剛毛を剃刀に見立てた(本当に刺れそうです)



⑫ブタナ (芝生広場) ●

直径：約 20mm
特徴：ひょろっとした茎先に花をつける
由来：フランスの俗名「ブタのサラダ」を訳したもの(英では「ネコの耳」)



⑬ハルジオン ○

直径：20-25mm
特徴：淡紅色～白色で糸状の花。茎は中空
由来：「シオン」という花に似ていて春咲くことから(シオンより圧倒的に有名)



⑭ヒメジョオン ○

直径：約 20mm
特徴：白色。茎はつまっている
由来：別種「ヒメシオン」と区別するためジョオン(中国産の野草)となった

どちらも茎を折らないで軽く押して確認して下さい

小川・池に咲く花



⑮カキツバタ (田んぼ付近の小川) ●

直径：約 12 cm
特徴：花びらの中央に白い剣形の模様。あやめは網目模様
由来：布に押し付けて染めたことから「掻ぎ付け花」「書き付け花」と呼ばれた



⑯オオフトイ (自然生態園入口そば) ●

長さ：5-10mm
特徴：円柱の茎の先に複数の小穂
由来：この仲間としては茎が太いことから(江戸時代の人もちょうと安易)



⑰オランダガラシ (4号観察小屋手前) ○

直径：約 6mm
特徴：4弁の十字状の花。葉は楕円形
由来：ヨーロッパ原産(舶来)の辛みのある葉(舶来といえばオランダだった)



⑱カワヂシャ (4号観察小屋手前) ○

直径：約 3-4mm
特徴：高さ 50cm 位。オオイヌフグりに似た花
由来：川に生え、若葉をチシャ(レタス)のように食用にした(生活密着)

ハハコグサの仲間のチチコグサの仲間

(公園のあちこちで見られます)



⑲チチコグサ ●

特徴：花は茎の先に丸く集まる。花のすぐ下に細い葉があり全体の数は少ない
由来：ハハコグサに似ていて地味な花であることから「チチ」(古代も今も変わらない)



ハハコグサ ●



ウラジロチチコグサ
葉の裏が白い



チチコグサモドキ
葉はへら形でやわらかい



タチチチコグサ
葉が細くてかたい